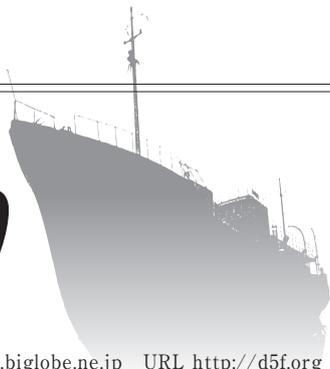


福竜丸だより



2014.09.01
No.383

(9・10月号)

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail：fukuryumar@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

墓碑

金 時鐘

久保山さんの墓碑銘は
岩に 彫りましょう。
ずつと 昔の その昔から
この地に 生え抜いた 岩にしましょう。
大理石では 冷たすぎるし
花崗岩では きれいすぎるし
さりとして 木では おぼつかないし
やはり 焼津の 波しぶく
磯べの 岩に 彫りつけましょう。
いつも つきない 語らいが
墓碑の乾きを うるおすように
飛沫を 高く 打ちあげて
汚れた この世を 怒れるように
潮の 流れを 浄めさせましょう。
決して 始めての 死ではなかつたと
広島長崎に続く 一人であつたと
死ぬ間際の そのきわまでも
原水爆禁止を 叫んでおられた人であつたと

ABC^{*}の 手をわずらわさずに
同族に 見守られて 死んでゆけた人であつたと
世界の友らに 告げてあげましょう。
いついつまでも 刻んでおきましょう。

* ABCC II 広島と長崎にアメリカが設置した原爆傷害調査
委員会

* 詩の出典は、『(在日) 文学全集』第五巻、勉誠出版
2006年による

* ビキニ水爆実験から六〇年目の三月一日に開かれた「記念の
つどい」で講演された池内了さんが、お話の最後に紹介した
のが、在日の詩人・金時鐘さんの「墓碑」でした。久保山愛
吉さんの死を悼む詩作品を、作者の御了解をいただき掲載し
ます。四〇歳で被ばくから二〇五日目九月二三日に亡くなら
れた久保山さん。金時鐘さんには、ビキニ事件を題材にした
詩、「南の島」(『死の灰詩集』に収録)、「知識」「処分法」な
どがあります。

* 金 時鐘(キム シジョン) 一九二九年一月、朝鮮元山市生
まれ、四八年の済州島四・三事件にて命の危険にさらされ、
来日。『原野の詩』『亡くした季節』ほか詩作品、詩集が数多
くあります。

黒田征太郎さんに聞く 第五福竜丸展示館と 原爆の丸木美術館での展示にあたり

ビキニ事件、第五福竜丸の被ばくから六〇年のアート企画として黒田征太郎さんの「フクリユウマル」展を一〇月一日から開きます。二〇〇五年以来、黒田さんが描かれた「第五福竜丸被ばく」を題材にしたイラスト作品一三〇点が展示されます。この展示会とつないで丸木美術館でも黒田征太郎さんのピカドン、「原爆の図」からうけた印象をもとにした描きおろし作品が展示されます。去る八月一二日に黒田さんをお連れして丸木美術館を訪ねました。その折に、黒田さんにお話をうかがいました。(文責編集部)

戦争と核に向き合うこと

ボク自身、世の中に対して物申そうとか、社会的発言をしよう、という気持ちはないんですけど、戦争にこだわる遠因はいろいろあるんです。黒田征太郎の「征」が出征兵士の征であるがごとく、自分の生まれた年を考えた



ら、一九三九年で日中戦争、欧州では第二次世界大戦の始まり…。いまは小学校ですが、ボクは最後の国民学校生、四月に入学、八月敗戦、ボクの中にもそういう時代は吸い込まれていますね。

それと周りの人たち、おばあちゃんや戦争でなくなった息子―ボクのおじですが―について、いつも話してくれました。戦後、親父がすぐ死んで、ボクたちを育てるために苦勞した母親から「二〇年八月」で戦争終わってへん、私たちの家はまだ戦争中だ、と

いうようなことをいつも聞かされた。ボクが習った当時の先生達は戦争帰りの人が多かった。そこからも戦争は良くない、と聞かされていた。決定的なのは、かなりな歳になってから、野坂昭如さんにお会いしたことですね。あの人は終始変わらず「昭和二〇年八月一日」に軸足を置いておられる。



二〇年ほど前にニューヨークの書店で「戦争童話集」とめぐり会った。これは広めた方がいいなあ、人間の歴史や戦争の歴史が書いてある。弱いものから巻き添えにあつていくとか、人間なんてたいしたもんじゃやない、ということ

ボクにできる絵を描く

こうしたい思いの延長に、丸木美術館と福竜丸展示館からのお誘いがあったと思います。一方ではほんとにボクでいいの、という思いも半分あります。

とアジア地域との戦争の後始末だつて終わっていない。いくらノーテンキに生きてきたボクでも気が付くわけです。そしたらボクに無理なくできることをやっていきたい。学習のできる場所が日本にある。沖縄、広島、長崎であり、東京には福竜丸展示館がある。今もつづいているんです。そして福島が起こった。

ただ丸木ご夫妻がたまには私たちのところで並ばせてやるよ、とおっしゃってくださいているのだと思う。それだったらご夫妻が描きになった作品の中から、ボクの目にとまったところの絵をボクなりに反芻してみることが、いちばん自然ではないか、と思

今回の展示はある種のリトマス試験紙です。できれば音楽なんかも一緒にやりたいんですが、とにかく若い人に遊びに来てもらいたい。いろんな思いを交差させてね。難しいことではなく、芸術がなにかなんて方向ではなく楽しむ。まさにリトマス試験紙で、ボクの絵、展示が試されている。だからこそみんなで作りたい、ということですよ。

八年がかりで「童話集」の絵本と映像化(DVD)を作りました。しかも作りながら、今まで知らなかったこと気づかなかつたことが増えて

科学者のラッセル・アインシュタイン宣言とその後私も深く関係するパグウォッシュ会議を生み出す原動力になったのだった。

『ビキニ水爆被災資料集』 新装版発行に際して

小沼 通二

核兵器の登場から六九年、米国の起こった最大の核爆発実験だったビキニ水爆による第五福竜丸被災から六〇年の二〇一四年に、『ビキニ水爆被災資料集』新装版(東京大学出版会、二〇一四年七月一日)が発行された。監修は、三宅泰雄、檜山義夫、草野信男の三人、編集は第五福竜丸平和協会である。

核兵器の非人道性がますます明らかになり、核兵器のない世界を求める日本内外の世論と国家が着実に増加している中で、核兵器を保有する国と日本政府を含んで核の傘に

とす国々が禁止に対する執

本書の内容は、「一九五四年三月一日ビキニ水爆実験」、「第五福竜丸と乗組員の被災をめぐって」、「ビキニ水爆実験に対する内外の反響」にわけて、まとめられている。さらに第五福竜丸保存に向けての多くの関係者の努力の記録、大量の「文献目録」などの「付録」が加えてある。今日の目で見ても重要な基本的資料に満ちていて、あらためてよく見ると忘れられてしま

ったものも少なくなく、ほとんどの資料は今では入手が不可能になっている。

初版が、今回の新装版と同じ東京大学出版会から出たのは一九七六年だった。新装版には、口絵写真の一部が変更



された以外は初版の内容がすべて含まれており、第五福竜丸平和協会の川崎昭一郎代表理事の巻頭の言葉と、巻末の「主要文献リスト」の増補が加わっている。しかも初版の資料は新装版でも同じページに納められていて、引用に混乱が生じないように配慮されている。

本書の監修者の三人と私は、一九五〇年代からの日本学術会議、初期の原水爆禁止世界大会、一九六二年に発足した科学者京都会議などの場でしばしば一緒にいる機会があった。三人とも鬼籍に入ってしまったが、懐かしい思い出が次々に浮かんでくる。

今の私自身にとってビキニ被曝に関して一番印象的なことは、日本の科学者によるビキニの死の灰の成分の分析結果が、西協安によって英国のロートプラットに伝えられ、彼が巨大な威力の元になった水爆の構造を見抜き、これがラッセルに伝えられた経過を、ロートプラットとの対話から出発して明らかにできたことである。これが、世界の

この機会に要望をだしてお

きたい。この資料集編集当時には、まだ公開できないといわれて含められなかったと書かれている資料がある。今努力すれば、公開してもらえないものもあるのではなかろうか。今が事実上そのための最後の機会かも知れない。また集めてある資料が全文が抜粋か明らかでないものがあるし、出典が不明のままのものがある。これも困難を承知で言うのだが、可能な限り調査できないだろうか。さらに巻末の「文献目録」と新装版で追加された増補を見ると、含まれていない大事なものがいろいろ気にかかる。これらは、第五福竜丸平和協会に受付の窓口を設け、気が付いた人からの情報提供を求め、ホームページ上に資料を集めていくとよいと思う。

(こぬま みちじ)世界平和アピール七人委員会事務局長 / 慶應大学名誉教授

◇小沼通二さんは、九月六日の市民講座で「ビキニ事件と科学者」と題し報告。核実験禁止、核廃絶への科学者のうごきをたどります。

建造の地、

串本町で初の第五福竜丸展

被ばく六〇年の節目である今年、第五福竜丸のパネル展が例年以上に各地で催されました。第五福竜丸平和協会では、展示会向けに二〇枚組のパネルセットをリニューアルし、資料の貸し出しを含めて七月、八月だけで一五カ所でパネル展などがおこなわれました。

その中で特に大規模な企画となった、和歌山県串本町での展示会を紹介します。

和歌山県串本町は紀伊半島の突端、本州最南端に位置し、一九四七年に第五福竜丸（当時は第七事代丸）がカツオ漁船として建造された町です。紀伊山地と太平洋に囲まれ、黒潮に最も近い町である串本町には豊かな海が広がり、世界で最も北に位置するサンゴの群生地として、ラムサール条約にも登録されています。



写真提供：仲江孝丸さん

こなわれた展示会は、串本町教育委員会の主催で八月九日から一四日、串本町文化センターのイベントランスホールや会議室などを使用し、三〇〇人余の来場者がありました。

開催にあたり、展示の設営には協会からスタッフ二名が出向きました。串本町はもともと雨や台風などの自然災害の多い土地です。今回も会期の始まりに合わせたかのように

に台風11号が接近、初日に予定されていた展示館学芸員による記念講演会も中止せざるを得なくなりました。しかし、せっかく来たのだからと町議の仲江孝丸さんのご厚意で古座川の「古座造船所」のあった中洲跡地を始め串本町の名所を案内いただきました。

第五福竜丸が建造された古座造船所は、古座川の河口の中洲の上にありました。当時の中洲は、沿岸の開発により川の増水の度に削られ現在では残っていません。国道沿いには「第五福竜丸建造の地」という記念碑が建てられ、建造から今日に至るまでの歴史も刻まれています。

展示会は台風の影響で客足も遠のくかと思われましたが、それでもお盆で帰省中の方や地元近隣から、また夏休みの自由研究の題材にと小学生や中学生などが多く訪れ、中には何度も繰り返し訪れる方や自身の体験を語られる方など多かったです。交流の場ともなったようです。

地域の歴史といっても第五福竜丸が被ばくしたのは遠い



古座川河口に立つ碑

ビキニの海のことです。串本の方々にとってもなかなか地元歴史として捉えにくい点もあるかもしれません。しかし串本は第五福竜丸建造の地というだけでなく、ビキニ事件当時に汚染魚の検査が実施された場所でもあります。近隣の田辺や勝浦でも検査は行われました。今回の展示会は串本町に関わりのあるパネルも用意し、第五福竜丸建造の地である串本の市民に福竜丸の歴史や核の被害を知っていただく機会となりました。

今回展示した資料は第五福竜丸やビキニ水爆実験、実験場となったマーシャル諸島の被害に関するパネルや第五福

竜丸が被ばくしたのは遠い

竜丸（第七事代丸）建造やその保存についてのタペストリーなどおよそ一〇〇点。また、町が所有する第五福竜丸の建造に携わった船大工の西田繁三さんから寄贈された当時も使われた大工道具なども展示されました。船大工の仕事に触れる貴重な道具の数々です。

建造から六七 years が経ち、当時のことを知る人が少なく努力はとて大切だと思えます。串本での展示設営と撤収の作業から各地での取り組みの重要性を改めて感じました。こうした各地での展示を見て、実際に第五福竜丸を見てみようという人びとが増えることは、ビキニ事件についての関心をさらに広めるためにも意味のあることだと思えます。

◆第五福竜丸、ビキニ事件を伝えるパネルの活用をよびかけています。A2判20枚組、B2判42枚組、マーシャル諸島の核被害など各種。費用などは第五福竜丸平和協会にご相談ください。

連続市民講座 第3回 いま水爆の時代を問う ～核と向き合い明日へ～

連続市民講座の第三回目「グローバル・フォールアウトと放射線被ばく」が、七月一九日、八七人の参加で行われ、三人の報告者に対してたくさん質疑が出されました。

ロバート・ジェイコブズ広島市立大学平和研究所准教授は「水爆実験が与えた核開発者と市民への影響」と題して、水爆プラボーが大量のフォールアウト（放射性降下物）を生み出したことよって、第五福竜丸、ロンゲラップ住民、作戦に従事した兵士が被ばくしたと同時に、フォールアウトを「核戦争計画」遂行に組み入れた経緯、人体の歯や骨、火葬後の灰を収集分析



した「サンシャイン計画」の実態などを報告しました。また今年三月にマーシャル諸島共和国で開催された核犠牲者追悼式典でのロヤック大統領のスピーチを紹介し、核実験の非人道性と損害補償を含めた救済の必要性を強調しました。

ジェイコブズさんの通訳も務めた高橋博子・広島市立大学平和研究所講師は、「米国の水爆開発 その実態と隠蔽の実相」と題して、米国が世界中で実施したグローバル・フォールアウトの調査目的と、実施当局の発想を、公文書などから読み解きました。

米原子力委員会が、プラボ

ー実験を含む核爆発実験により、多数の被ばく者が生み出されたことを認識しつつも、「被害はたいしたことはない」とする公式見解を固持する一方で、サンシャイン計画を実施していたこと、放射能汚染を認めたとうえで、それを防御するための民間防衛計画によるプロパガンダの推進など、核による脅しと開き直りの政策について報告しました。

核戦争による人類絶滅を描いた映画『渚にて』（一九五九年スタンリー・クレイマー監督）が、人々に恐怖と疑念を抱かせることを警戒した米原子力委員会では、たとえ核戦争となった場合でも、死傷者はでるとしても人類が全滅するわけではないとの見地から特にクレームはつけなかったエピソードなども紹介されました。

遺伝学研究者で医師の振津かつみ・兵庫医科大学助教は「グローバル・フォールアウトの被ばく被害から」と題して、被ばくの「被害評価」、科学者たちの警鐘の系譜、「許容量」の概念に潜む発想を遺伝学的見地から分析し、広島・

串本の船・第十三光栄丸
一九五四年三月二六日、神奈川県三崎に帰港し、船、魚、人から放射能が検出されたとして、四月一日九〇〇貫の漁獲物を海洋廃棄させられた第十三光栄丸は、串本町出身者の船であったことが、当時の地元紙の報道から確認されました。船主、漁労長、船長とも三崎にほぼ定住していたとのことです（紀伊民報三月三〇日付）。串本町での第五福竜丸展会期中に、船主を知

長崎の原爆被害者、チェルノブイリ被ばく者の健康調査に携わってきた者として、苦しむ人がこれ以上でないよう努力することに、ともに考えていきたいと、訴えました。

フォールアウトが問題となるまでは、核開発に必要な労働者のみが対象の「被曝基準値」が一般公衆にも必要となっていました。しかし「国を守る」「エネルギーを供給する」「経済発展」などの便益（ベネフィット）に対して、リスクを受忍する」という「リスク・ベネフィット論」の導入が、核利用システムを可能にしているとして、核開発のあらゆる過程でうみ

核開発のあらゆる過程でうみ

る人がいたと仲江町議から連絡をいただきました。同船からは当初船体から二四四三カウントという高い数値が検出されましたが、機器の不具合だったことが後に判明するなど、混乱のなかでの測定と廃棄決定でした。乗組員は帰港後血液検査も受けています。また同年五月一日のメーデーでは「第十三光栄丸船員一同」名で訴えのチラシを出し、一般市民に窮状を訴えました。（「ビキニ事件三浦の記録」参照）

だされるヒバクシャへの支援と「核時代」を終わらせる運動を結んでいくべきと警鐘を促しました。最後にコメンテーターの樋口敏広さんからグローバル・フォールアウトという新たな問題領域についての概念整理があり「科学者は何をすべきなのか。市民は科学の知見に對してどうすべきか」との問題提起がなされました。

毎回たくさんのボランティアスタッフが支えられて開催していますが、今回は通訳ボランティアにも協力していただきました。紙面をかりて、あらためて感謝します。

連載^②

晴れた日に 雨の日に

山村茂雄

『ビキニ水爆被災資料集』(東京大学出版会)が復刻新装版として刊行されました。「資料集」の初版が刊行されたのは一九七六年の三月。ビキニ被災事件を総合的に編纂した資料集として高い評価を受けた出版でした。出版から三〇余年、昨今は入手が難しいなかで、ビキニ被災六〇年を期にしての再版はうれしいことでした。

「資料集」巻頭には美濃部亮吉東京都知事の「序にかえて」につづけて、三宅泰雄第五福竜丸平和協会会長の「第五福竜丸のおしえ」題した序文が掲載されています。

「欧米人は船を「彼女」とよぶ。たしかに船の運命は人間のそれに似ている」そう書き出された三宅さんの文章は

「人間に履歴があるように、船にも船歴がある。人間がそうであるように、船もまた、その一生のあいだに、悲喜こもごもの体験をしなければならぬ。しかし、第五福竜丸ほど数奇な運命をたどった船はまれである」と指摘し、船の被災から廃船、保存運動に至る道筋をたどりつつ、第五福竜丸がその数奇な運命を通じて私たちに語りつづけてきた最も大切な「おしえ」は、「核兵器のない、平和と幸福の世界への希望ではあるまいか」と結ばれています。

*

三宅泰雄さんはこの序文に第五福竜丸保存の意義については「第五福竜丸は人類の未来を啓示する」の中のできてくるのか、この小冊子ではのべなかつたいくつかを追加したとおきたい、と次のように指摘されています。「第一に、第五福竜丸はわが国の放射線影響研究の原点であった」、「第二に、わが国の科学者に、その社会的責任の重大性を自覚させる要因でもあった」、「第三に、わが国科

学界的潜在的な力をひろく世界に示す動機になった」として「第五福竜丸を保存することは多くの科学者のねがいである」。

*

三宅さんが第五福竜丸保存の意義をのべた「第五福竜丸は人類の未来を啓示する」は一九七三年九月二三日、第五福竜丸保存委員会と地元静岡の保存運動呼びかけ人会議の主催によって開かれた「核兵器禁止と第五福竜丸保存のつどい」(焼津産業会館)の主催者挨拶を、その年の一月二日にB5判一〇ページ余の小冊子にして保存委員会から発行したものです。

そこでは、世界で保存されているいろいろな船がその国だけでなく人類全体に過去の歴史と今後への教訓のこしてあるという話からはじめられています。一つを引けば、一九九三年に北極探検に向かったナンセンなど一二名の隊員を乗せたノルウェーのフラム号。オスロ市に保存されている「このフラム号は三角屋根の大きい建物の中に保存されています。第五福竜丸も、

できれば同じような形式の建物の中に保存したいと願っています」と三宅さんは語ります。そして、

「第五福竜丸の保存の意義といえは、いうまでもなく、それが水素爆弾による人類史上はじめての被災者であり世界でただ一つしかない人類の貴重な財産であるということ」――「私は第五福竜丸の無言の聲は、かならず人々の心のなかに、大切な誓いをきざみこむことを信じてうたがいません」とのべ、次いでこう話されたのでした。

「記念としてのこざれている船のもつ意味は、それぞれに貴重なものです。しかし、私は第五福竜丸のもつ意義は、これらの船にもましてさらに重要であると考えます。なぜなら、第五福竜丸は過去の歴史というより、むしろ、未来の人類の命運を啓示している」。

「つどい」に先だち弘徳院で開かれた久保山愛吉追悼会の席で、久保山すずさんから愛吉の船員手帳や遺品の数々家族に寄せられた慰問の手紙などが保存委員会に寄贈され

ました。寄贈された三〇〇〇通余の手紙は分類され「資料集」の一部が収録されました。

*

平和協会の財団法人設立は七三年一月、三宅さんは会長に就任します。

三宅さんが、オスロ市のフラム号のように「三角屋根の建物の中の保存」をとの思いを話されてから三年、一九七六年六月一日都立第五福竜丸展示館が開館。展示館内に置かれた来館者用のソファ―に深く腰を落とし、猿橋勝子さん(協会理事)とともに、木造の船体をいっくしむように見上げる三宅さんの姿が彷彿します。一八年間にわたり平和協会会長を務められ一九九〇年一月一六日死去。享年八二歳でした。(やまむら しげお/第五福竜丸平和協会顧問)

◇岩垂弘著『核』に立ち向かった人びと」収録の「死の灰と闘った科学者―三宅泰雄」は、親しく三宅さんを語る評伝となっています。二〇〇五年・日本図書センター刊。

豊崎博光編著『写真記録 原発・核の時代』 核開発の果てにあるもの』を読んで 中原聖乃

豊崎さんと初めて会ったのは、一九九九年、マーシャル諸島の首都マジュロの中華料理屋だった。そのとき私は博士課程一年目の大学院生で、マーシャル諸島で初めての長期フィールドワークを始めたばかりだった。核問題の先達に会えるのを楽しみにしつつも、いくつかの著書を読んだ、一九七〇年代から世界中を取り組んできた豊崎さんにかうのを、かなりの緊張感を感じながら待った。豊崎さんは大きな体を上下に揺らしなが

らゆつくりとお店に入ってきた。私は豊崎さんが醸し出すオーラ―穏やかながらも強い意志―に圧倒され、聞きたいことも聞けなかつたのを覚えている。私は現地の文化を理解することで自らの文化も客観的に捉えることを目的とする「文化人類学」を専門としているが、豊崎さんに触発され、公文書にアクセスし、「歴史人類学」なるものをめざし始めた。

あれから一五年の歳月が過ぎた今、私は、豊崎さんのこれまで仕事の集大成といえるべき写真集の書評をまかされた。

この写真集が最も伝えたいことは何だろうか。それは、世界の核弾頭一万七二七五発と四三四カ所の原発施設に関する、製造から使用を経て廃棄まで―ウランの採掘、精錬、濃縮、加工、核兵器製造、配備、原子力発電所稼働、使用

済み核燃料の再処理、再利用―という一般的な意味の「核サイクル」だけではなく、核のレイシズムといわれる「もう一つの核サイクル」ではないかと思う。冒頭にはアメリカのネバダ核実験場の写真があるが、核実験期間中ではなく、原発の使用済み核燃料が埋設されてしまった核実験終了後の写真である。いったん高レベルに放射能汚染されると、放射能汚染を引き受ける場所になることをこの写真は教えている。

このように、一般的な意味の「核サイクル」を縦糸として、人々の日常生活を横糸として、そこから必然的に紡ぎだされてしまう放射能被害の悲劇について、この写真集は訴えているのである。

この写真集には、核実験場近くのユタ州で放射線を持羊が大量に死亡した経験を持つ男性が写っている。男性は放牧中に核実験の閃光を見たため、アメリカ政府に核実験と羊の死亡との因果関係を訴えたが、アメリカ政府は認めなかつたとある。

は認めないが、その直接的な被害を押し付けられるのは、自然とともに暮らし、政治的に力が弱く、経済的にも豊かではない人々である。

アイゼンハワー大統領の国連総会における有名な演説「アトムズ・フォー・ピース(平和のための原子力)」や先進国の原子力推進政策によって、さらに放射能の危険は拡散されることになったのである。スリーマイル島、チェルノブイリ、福島における原発事故はその被害を、少数の弱者から、それ以外の地域や人々に広げてきた。

その他、核を搭載した米国機の墜落による被害や、閉鎖後もなお周辺環境を蝕み続けている放射能汚染の実態が明らかにされている。この本は、核の被害の全体像を丁寧に見せてくれる。健康、住まい、仕事、暮らし、コミュニティの喪失、いわば人格権の侵害を三年前に体験した私たち日本は、今後どのような未来を作り上げていくのかと、この写真集は、一人ひとりに問いかけているのである。



『第五福竜丸は航海中』
図書館ヘリクエストを！
ビキニ水爆被災60年記念出版『第五福竜丸は航海中』は、展示館内のミュージアムショップ、各地でのイベント会場等で普及がすすんでいきます。ひきつづき地域の図書館等へのリクエストを願います。(発売元：現代企画室)

真夏にぎわう展示館

夏休みに入り、たくさん子どもたちが展示館にやってきます。夏休みの自由研究で第五福竜丸について調べる子どもや学校から出された課題で2,3人で連れ立って来る生徒など、熱心に展示を見ては質問をしていきます。

8月10日には、コープみらいの親子13人が来館、夏休み恒例の「牛乳パックでつくる第五福竜丸」の工作教室がおこなわれました。接着剤でパーツを貼りあわせ、自分だけの第五福竜丸を作ります。思いおもいの装飾を施し完成、そしてプールで進水式です。上手に浮かび勢い良く進む姿に、子どもたちも親からも歓声が上がります。



特別展示 —マーシャル編始まる

8月16日よりビキニ水爆事件・第五福竜丸被ばく60年特別展「被ばくの島マーシャル—ジョン・アンジャインと小宮茂雄の交友録」を開催中です。戦前のマーシャル諸島で気象観測所の観測員をしていた小宮茂雄さん、ビキニ水爆事件当時にロンゲラップ島の村長だったジョン・アンジャインさんの交流、友情をたどる展示です。

本展示は、小宮さんの半生を数年かけて聞き取りしたジャーナリスト澤田猛さん（元毎日新聞編集委員）と40年余りマーシャル諸島の取材を重ねロンゲラップの人びとへの支援船を贈る取り組みを進めたフォト・ジャーナリスト島田興生さんによる企画・構成で

す。会期は9月末までです。



水爆被災のTV ドキュメンタリー三題

この夏、ビキニ事件や第五福竜丸に関連したテレビ番組より。

◇『静岡流「3000通の手紙が語るビキニ事件」』（NHK静岡）

展示館所蔵の久保山愛吉さんへの手紙から伝わる市民の思いを辿った番組。当時久保山さんに手紙を送られた方を探し出しているインタビューなど。

◇『続・放射線を浴びたX年後』（南海放送）NNNドキュメント'14で放送。

第五福竜丸以外の被災漁船のドキュメンタリー『X年後』（伊東英朗ディレクター）の続編。放射能雨に注目し、沖縄、山形、京都で調査。米軍統治下

の沖縄での実態に迫る。

◇『水爆実験60年目の真実～広島が迫る「埋もれた被ばく」』（NHK広島）

福竜丸以外の被災船乗組員の被ばくをこんにちの科学分析で究明。広島科学者などによる歯に残る放射性物質の検出や血液検査から浮き彫りにする。漁船の航跡図と米軍の汚染地図から汚染魚捕獲船のうち100隻がとくに乗組員の被ばくが疑わしいと分析。

第4回市民講座 9月6日開催

ビキニ水爆事件・第五福竜丸被ばく60年記念の連続市民講座の最終回。

『核兵器と科学者、市民、被ばく者』

▶「ビキニ事件と科学者」小沼通二（物理学者）

▶「核実験と欧米市民・知識人～核開発への抑止」樋口敏広（京都大学）

▶「核兵器のない世界への胎動～2015年NPT再検討会議へ」川崎哲（核廃絶国際キャンペーン運営委員）

9月6日（土）13:00～17:00

明治学院大学白金校舎2号館2401教室 資料代：500円

9月23日・久保山忌につどう

☆第34回久保山忌句会「被ばく60年、久保山さん生誕100年」

- ・午前10時30分 第五福竜丸展示館久保山碑に献花
- ・吟行、昼食後、午後1時30分より句会（スポーツ文化館C研修室）

◇被ばく60年記念特別展示——久保山忌句会船員証作品と60年、100年記念作品
展示期間 9月14日～10月5日まで 第五福竜丸船体右舷の受付手前

☆第22回平和を語る第五福竜丸の集い

- ・開会10時30分 語り、うた、朗読、紙芝居、演奏など皆さんのパフォーマンスをつうじて演者、参加者が平和への希いを発信。
- 第五福竜丸平和協会への寄付贈呈、似顔絵コーナーもあり。閉会15時。

☆第28回 第五福竜丸のつどい 東京原水協主催

- ・第五福竜丸展示館見学会 13時～14時…あいさつ、ボランティアガイドによる見学案内、久保山記念碑への献花。
- ・学習会（スポーツ文化館マルチホール）14時30分より
記念講演——川崎昭一郎・第五福竜丸平和協会代表理事